



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

〔第三七二号〕

ぼうしゅ  
芒種

六月六日

## 和たこ風と幟旗

水無月六月、雨と付き合う季節が巡ってきました。けれど、芒種の六月六日は旧暦では五月八日、江戸の頃ならば端午の節句の幟旗のほりばたがまだはためいていたのかもしれませんが。

先日、おかげ横丁大黒ホールで十年ぶりの展示という江戸風を拝見しました。会場には、勇壮な鎧武者を描いた風がずらり。壇ノ浦、一ノ谷、宇治川など、ちょうど大河ドラマで放映されている源平合戦を題材としたものが多く展示されていました。これらは、風絵の第一人者、故・橋本禎造ていぞう氏の手によるものです。橋本氏は明治三十七年生まれ、浮世絵師の歌川国芳くによしの流れをくみ、七十七年間風作りに打ち込みました。東京都台東区無形文化財保持者にもなっています。最初は木版や型紙を用いて、空に揚げた時見えるように武者たちを大きく描いています。江戸時代は男児の初節句には武者絵など勇ましい図柄の風を高々と揚げ、成長を祈ったようです。武者絵に源義経が多く描かれているのも、当時の少年たちのヒーローであったことがうかがえます。しかし、江戸風も子どもの遊戯用から大人の鑑賞用へと用途が変わるにつれて、武者たちの顔はバランスをとり小さく、装束などは緻密に描かれるようになっていきます。それらは今もなお、色鮮やかで、おそらく一度も空に揚げたことのない風ではないでしょうか。

また、会場には昨年について、男児の初節句などに立てた幟旗も展示されていました。こちらにも勇壮な武者が描かれています。担当者によると、「この幟旗を参考にして江戸風が制作されたのではないか、そのため江戸風は縦長の長方形が多い」という収集家の指摘も。江戸の浮世絵師の流れをくむという江戸風。そういえば、空に風が揚がるのを久しく見ていないことに気づき、少し淋しく思いました。

文 千種清美



# おかげの里便り

## おかげ横丁

### ○『梅雨のおかげ横丁』

6月11日頃は「入梅」といわれ、この時期から約30日間を「梅雨」と呼び、その語源は、「梅の実が黄色く熟す季節の雨」から来ているといわれています。

梅雨の季節を粋に楽しく過ごせるよう、古人は、番傘をさして雨音に耳を傾けたり、きれいに咲く紫陽花に心をませたりしたことでしょう。

おかげ横丁で、しっとりと雨の風情に包まれながら、心に残る素敵な雨の日の思い出を作りませんか。

日 時／6月18日(土)～6月26日(日) 10:00～17:00 (※催しにより異なる)

場 所／おかげ横丁一帯

#### ● 企画展「苔を楽しむ」

雨が続く梅雨の季節。水に濡れて美しく輝く苔は、この季節だからこそ楽しめるもののひとつです。見ているだけでも癒される苔の世界をお楽しみください。

場 所／伊勢路名産味の館2階「大黒ホール」

出店作家(予定)／伊勢の苔玉やさん、モスライト、蘇苔家、苔なっこ

#### ● 企画展「伊勢の園芸」

伊勢を拠点に活動している作家さんの作品を中心に盆栽、苔玉、テラリウムなどの園芸作品を約150点を展示・販売します。

場 所／伊勢路裁苑

出店作家(予定)／伊勢の苔玉やさん、実生栽、伊勢盆栽、樹弥沙、山下園芸、クロスワークス、グリーンアップ

#### ● ところてん突き体験

つるつる、ぷりぷりの食感で江戸時代から夏の食べ物として人気のところてん。

伊勢志摩産の天草で作ったところてんをところてん突きでつるりと突き出しましょう。

日 時／6月18日(土)、19日(日)、25日(土)、26日(日) 11:00～12:00、13:00～14:00

場 所／野あそび棚

定 員／各回10名(要予約)

料 金／500円(税込)

お問い合わせ／おかげ横丁総合案内「おみやげや」電話0596-23-8838

※新型コロナウイルス感染拡大予防のため、内容の一部または全体を中止する場合があります。

## 五十鈴塾

### ○『伊勢歌舞伎と千束屋～史資料から読み解く伊勢古市～』

伊勢で芝居が上演されるようになるのは、江戸時代初期(17世紀前半)とされています。

当時、江戸・京都・大坂に次ぐ歌舞伎の先進地域であった伊勢は、「上方歌舞伎の登竜門」として、歌舞伎役者の間で重要な場所に位置付けられていました。

特に、内宮・外宮の中間地点に位置していた古市には芝居小屋が常設されており、中之地藏

(現在の中之切町)と共に「間の山両町」として親しまれ、多くの参宮者が往来したことから、伊勢随一の歓楽街として栄えました。

本講座では、神道博物館が所蔵する「千束屋」の史資料を中心にご紹介しながら、伊勢歌舞伎によって栄えた近世の伊勢古市の姿についてお話しします。

日 時／6月7日(火) 13:30～15:00

講 師／小林 郁／(皇學館大学佐川記念神道博物館学芸員・助教)

参加費／一般 1,400円 会員 900円

場 所／五十鈴塾右王舎

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

## 五十鈴茶屋

### ○『節気菓子』

びわ  
枇杷

枇杷の実が鮮やかに色をつける頃となりました。枇杷は果実の美味しさはもとより葉に薬効があり、古くから、病を癒すために用いられたと伝えられています。

黄身餡を外郎生地で包み、甘く瑞々しい枇杷の実を表現しました。

なつごろも  
夏衣

六月は衣替の月。

昔の人々もこの時季には、帷子(かたびら)という麻で織った薄い夏物へと衣替えをしていたといわれています。薄紅と緑に染め分けた餡を、透明な葛生地で巻き、涼しく軽やかな夏衣の風情にみたまました。

よひら はな  
四片の花

四片の花とは、あじさいの別称。四枚の花びらがたくさん集まった姿から、その名が生まれたと言われます。

薄紫の錦玉を淡雪で寄せ、白餡を包みました。